

# おいでん・さんそんSHOW

6月号  
2019.6.01発行

## 第9期豊森なりわい塾が始動

27名が農山村をフィールドに学び、社会・生き方を考える

足助 旭 下山



様々な年代、属性の27名が来年の2月まで一緒に学んでいく

今年度から、地元の間支援組織である一般社団法人おいでん・さんそんが事務局として加わり、4者の共働事業となりました。一社が培ってきた山村地域とのつながりを活かして、9期のフィールドを選定。塾生と地域との相互の変化や成長を目指します。

### 入塾式

5月18日(土)、足助交流館で9期生の入塾式が行われ、定員を大きく上回る27名が入塾しました。



池澤塾長は、入塾式の挨拶で「これからの幸せのかたちを見つけてほしい」と話した

塾長の池澤寿一氏は「いい大学に入っている企業に就職して結婚をして、というすごろく式人生を送れば幸せになれるという時代ではなくなりました。かつて山村地域にあった持続可能な人々の暮らしに触れ、学ぶ中で、皆さんそれぞれの、これからの幸せのかたちを見つけてほしい。私たちスタッフはそれを一緒に考えていく仲間です」と挨拶しました。

豊田市からは太田稔彦市長が「今や人生120年の時代。このままの人生・社会・国・地球でいいのが強く問われています。塾生のみならずには豊森での一年を始まりとして、ずっと豊田市や山村地域と関わってほしい」と、熱く語りました。

トヨタ自動車株式会社からは社会貢献推進部の大洞和彦担当部長が挨拶。「豊森はトヨタ自動

### vol.55 事業承継

## センター長のミライのフツに 向かって！



センター長 鈴木辰吉

少子高齢化、人口減少などを背景に中小企業の事業承継が社会問題化しており、経営承継円滑化法などの支援策も打ち出されている。同様に、まちづくり

活動や伝統文化などの承継も後継者難に直面しており、センターへの相談も相次いでいる。平成の合併とともに本市が取り組んだ地域自治システムは、都

市内分権、住民自治を進める上で極めて有効な施策だと思っ。分けても、この間取組まれた「わくわく事業」は、3千5百事業余、延べ参加人数24万人余とされ、継続を前提とした事業では、10年も経てば事業承継が課題になるのは必然だ。

センターは、これらの相談に、ネットワークが持つ情報を駆使して支援者となつてマッチングを行うが、いつもうまくいく訳では

なく、むしろお待ちいただくことの方が多。逃げ口上でいつもお話しするのは、事業の「承継と継承」の違い。「承継とは志や精神を承継して、継承は事を継承すること。事業承継なのだから規模や形は変わっても楽しいと言える活動の範囲で志を受け継いではどうですか。いつか仲間が増えれば、また大きくすればいい。これで皆さん、結構晴れ晴れとした顔で

帰って行かれる。「コミュニティデザインのstudio」コアメンバーの西上ありささんは、地域づくりの活動は「正しい」「楽しい」がプラスされなければ持続が困難と説く。地縁組織であれテーマ型活動団体であれ世代交代、事業承継は避けて通れない逃げ口上で言っているが、「楽しい」というモノサシは、案外真実なのかもしれない。

## イベント情報

### 子育て耕縁会『もっと子どもを好きになる』～親のあり方と子どもの権利～

子育て耕縁会は、5回目に突入しました。今年度はバリエーションを増やし、子育てを色々な角度から考える試みをします。

#### ●内容

①6月26日(水)かよさんの勇気づけ講座「親のあり方と子どもの権利の話」  
講師\*鈴木佳代さん | アクティブ・ペアレンティング・ジャパン認定トレーナー、とよた市民活動センター登録団体『アティテューディナル・ヒーリングとよた』代表、豊田市親育ち交流カフェ講師

②7月17日(水)大人のための合唱講座「音とことばの楽しさを 共に響きあおう!」  
講師\*竹内支保子さん | ソプラノ歌手、京都市立音楽高等学校卒業。東京藝術大学卒業。卒業時に同声会賞受賞。第2回ノヴィ国際音楽コンクール奨励賞受賞。オペラ「花言葉〜ドンナ・ロシータ」ドンナ・ロシータ役。文化庁人材育成オペラ「修道女アンジェリカ」助修女優。その他、多数のコンサートに出演。映画音楽、ゲーム音楽、CM等のレコーディングに参加。渡邊陸雄、中村千恵子、正木真理、日比啓子、南條年章の各氏に師事。現在、岡崎音楽家協会所属。音楽ユニットら・びーた、Duo le lien、各ボーカル。銀の鈴豊田クラス、山里混声合唱団こだま、冷田児童合唱団、各講師。

③8/28(水)ひさちゃんの「性の科学と健康講座」  
講師\*鈴木久代さん | 中学1年と高校1年の姉妹の母。元・吉村医院助産婦。2012年より「性の健康かたりべ」として活動を始める。豊田市の小学校の保健の授業やPTA講座、幼稚園、子育てサークルの依頼を受け、出張講座を開催。また、愛知県内各地のお母さんたちに依頼を受け、年間50〜60の出張講座を行なっている。最近では、大人が性について語れる場の必要性を感じ、座談会などを主催。女性専用護身術Wen-DoやNVC(非暴力コミュニケーション)を伝える活動も行う。

④10/23(水)かよさんの勇気づけ講座「子どもの性格と勇気づけ」  
講師\*鈴木佳代さん

※講座は連続でも、単発でも申込みできます。

●場所 | 社会福祉協議会(足助支所)まめだ館(豊田市足助町東貝戸10 百年草横)

●参加費 | 一回500円(お茶菓子付き)

●スケジュール | 10:00~10:30/笑いヨガ、ウォーミングアップなど/10:30~12:00親育ち交流カフェ/13:00まで会場で昼食を食べることができます。◎参加者同士が話す時間を長く取ります。ここで話された内容は「外に持ち出さない」というルールを守ること、安心安全な場となります。

●申込方法 | 申込内容(件名『子育て耕縁会申込』)①お名前②参加日③連絡先(携帯アドレス)④子ども同伴の場合は人数と年齢)を、おいでん・さんそんセンター小黒に電話0565-62-0610、ファックス0565-62-0614またはsanson-center@city.toyota.aichi.jpにメール送信してご連絡ください。

●問合せ | おいでん・さんそんセンター  
TEL0565-62-0610 FAX0565-62-0614  
(担当)次世代育成部会 小黒





# トヨタ労組農業体験・開耕式

新設の「実践コース」には、4家族17名がチャレンジ



5月12日(日)、爽やかな晴天の下、第10回目となるトヨタ自動車労働組合の農業体験「開耕式・田起し」in新盛町が、足助地区すげの里、「もりの里市民農園」で開催されました。

参加者は、31家族110名、今回から、これまでの「体験コース」に加え、本格的な就農を視野に入れた「実践コース」が新設され、4家族17名がチャレンジします。新盛里山耕実行委員会(松井幸雄会長)のベテラン農家6名の指導の下、有機減農薬ミネアサヒの生産がスタートしました。

新盛名物のヤギが出迎えるほ場では、さっそくトラクターによる田起し体験やモグラの穴を塞ぐ法面タタキなどの作業が手際よく進められました。

今年度より、「すげの里」の指定管理と「もりの里市民農園」の開設



すげの里の前で、集合写真



(左・右) 地元のベテラン農家の指導で、田起こし体験をする様子

者となった(一社)おいでん・さんそんとしては、耕作放棄地対策の前進につながる「実践コース」の成果に大いに期待しています。今から秋の収穫が楽しみです。(鈴木辰吉)



# おいでんトレイル栃本初心者ルートお披露目会

地元が企画した「桜の森づくり」参加者の発案が実現



5月19日(日)、「おいでんトレイル足助栃本初心者ルートお披露目会」が開催されました。足助地区栃本町地内にて、38名の方が一般参加され、地元住人・来賓も合わせて60人ほどの賑やかな会になりました。

栃本町は13戸という小さな集落ですが、最近では「桜の森づくり」として、地元住民と一般参加者が山に桜の木を植樹し、継続的に環境整備に訪れる場所づくりをしています。

2018年7月、桜の森づくりに参加した深谷暢樹さんはマウンテンバイクが趣味。地元の方に「マウンテンバイクで走れるところがないか」と軽い気持ちで尋ねてみると、「あるかもしれない」と返事がありました。その後、案内してもらった里山は整備すれば楽しめるトレイルになりそうな場所でした。そこで深谷さんが地元住民にトレイルを作る企画を提案すると、とんとん拍子に話が進み、1年足らずの間

主催者側と地元が協力してトレイルの整備を行ってきた



にコースのお披露目会まで漕ぎつけたのだそうです。

お披露目会では最初に参

加者全員でコースを歩きましたが、程よく起伏やカーブがあり、とても気持ちの良いコースでした。その後試走会が開かれ、参加者の方々は何度も楽しそうに周回していました。

お昼には地元の方々が作った豚汁の振る舞いもあり、桜の森づくりからつながる主催者側と地元の方との信頼関係を感じました。深谷さんは、「地元栃本町との関係を最優先に今後も色々な企画を考えていく予定です」と言います。キッズフィールドや中上級コースが整備されていくと、より多くの親子連れも参加されていくでしょう。

新たな栃本町での取り組みに目が離せません。(小黑敦子)

この里山の再生・保全を目指したエコの森セミナーの後継プログラムです。当社からも10年で40名以上の卒業生を輩出。森林ボランティアなどで山村との関わりを続けている社員も多く、地域課題と自分の人生を重ねる機会になっています」と卒業生の実践について触れました。

(一社)おいでん・さんそんの鈴木辰吉代表理事は「これまで親戚の叔父さんくらいの位置から豊森を支え見守ってきたが、これからは事務局として親父並みの近さと熱で1人も取りこぼさずに関わっていくつもりです。豊田市はSDGs未来都市に選定されたが、豊森はそのずっと前から地球規模の問題提起をしてきました。今はSDGsの認知度は20%に満たないが、それが70%になれば社会は劇的に変化するでしょう」と、今後の塾生の実践と発信に期待を寄せました。



入塾生を代表して決意表明をする桑山奈々香さん

第9期入塾生代表として、市内で非常勤養護教諭として働く桑山奈々香さんが決意表明をしました。努力や思考を巡らせた「楽しい」という経験と、異業種、多世代、他地域の人の出逢いを豊森でたくさん得て、子ども達に伝えたいです」と瞳を輝かせました。

第1回講座1日目 「豊森のめざすもの/集落をみる、みる、みる」 入塾式の後、さっそく第1回講座がスタートしました。豊田市企画政策部の安田明弘部長より「豊田市の山村地域について」と題したレクチャーを受け、データを基に山村地域の問題提起と取組の実践例を学びました。澁澤寿一塾長からは「豊森のめざすもの」と題し、「目に見える風景の向こう側にあるくらしに目を向け、想像する経験を。食料自給率が1%に満たない東京・大阪圏は砂上の楼閣かもしれない。自然災害やシステム障害などでお金を使えなくなった途端に暮らしがたちゆかなくなりますが、それが70%になれば社会は劇的に変化するでしょう」と、今後の塾生の実践と発信に期待を寄せました。

午後からは、旭地区浅野自治区浅谷町、足助地区明和自治区連谷町、下山区羽布自治区羽布町の3グループに分かれて「ある、みる、みる、みる」を実践するフィールドワークへ向いました。午前中に2つのレクチャーを受けたことで、地域で暮らし続けてきた住民の皆さんへ活発な質問が飛び交います。塾生たちはこれまで車で通過するだけだった地域に、自然に合った持続可能なくらしと、旧街道の歴史に沿った営みがあることを実感し、「地域を見る目が全く違うものになった」との感想を口々に言っていました。

第1回講座2日目 「グループワーク/なぜいま地域か」 フィールドワークで得た情報や体感した感想を基に、グループごとに発表を行いました。前夜の懇親会で寝不足気味ながら、初対面の塾生同士が協力し合って「お互い同じものを見て違うものを感じている」という新鮮な驚きとともにまとめあげました。澁澤塾長の総評では「この地域で生きるとは？自分でもし移住するとしたら？移住できない理由とは？」と、課題を自分ごとに引き寄せる投げかけがありました。

お昼ごはんは、豊森卒業生有志による「とよもり食堂」のお昼ご飯

初日に行ったフィールドワークでは地元の方に案内していただき地域を歩いた



初日に行ったフィールドワークでは地元の方に案内していただき地域を歩いた



来年2月の卒業までに、塾生と地域との間で起こる化学反応に期待したいと思います。(松本真実)

発表の後は駒宮博男副塾長によるレクチャー『なぜいま地域か』現代とはどういう時代か』を聴講。山・小水力発電・経済学・農的くらしの実践。駒宮副塾長の洪水のような知識と情報量に圧倒される塾生が多数でした。50代の塾生は「幅広い分野の仕事をしてきたつもりだが、あるひとつの分野の狭い情報の中にいただけだったと気づかされた。これからの学びを思うとワクワクします」と感想を述べ、豊森での1年間への期待が膨らむ講座となりました。

卒塾生有志による「とよもり食堂」のお昼ご飯



卒塾生有志による「とよもり食堂」のお昼ご飯



初日のフィールドワークについてグループで話し合う



澁澤塾長によるレクチャー